桑沢デザイン研究所
東京都渋谷区北谷町32
電話東京46－5330，8853

guidance of kuwasawa design school 1959

学校法人・桑沢学園

桑沢デザイン研究所案内

デザインとは
人間性に立脚し　生活に根ざし　社会の進歩に　貢献するものであり
デザイナーとは
ゆたかな創造力と同時に　科学的な判断力の持主で〝現代社会の一員としての使命と責任を　十分に認識した人であるといえましょう
桑沢デザイン研究所の教育目標は
いわゆる器用な職人の速成ではありません
デザインを学ぶ人にとつて　もつとも重要なことは　デザインとはなにか・・・
デザイナーの態度は　どうあるべきか・・・
日本のデザインは　どうあるべきか・・・
の根本を　正しく把握させることにありますと同時に
デザイン感覚の正しい基礎を　実習をとおして　徹底的に身につけさせ　各人の個性
才能を　発見させ　助長させます
それらは
すべて自分自身の〝手〟と〝あたま〟を使つて積極的かつ自主的に　学びとるのであつて他人から強いられて　学ぶところでもなければ　義務教育でもないことは　もちろんです
ここでは　また
知的　技術的な習得ばかりでなく
クラスあるいは学校を　　1つの社会と考え
学習をとおして　お互がよりよく協力し
お互を理解することのできる人間になることつまりチーム・ワークの精神を身につけさせます
このことは
例えば　デザイナーの仕事は　画家が1人でアトリエにこもつて　仕事をすることとは異り　その仕事の場は　現代の生産という組織の中にあり　常にチームの協同作業を必要とするため　相互の人間的　感覚的　技術的な理解と協力が　要求されるからです
現在　ここでは
ドレスデザイン科とリビングデザイン科の
2つのコースがあります
ドレスデザイン科は
これまでの花嫁教育としての洋裁とは　本質的に異つたところから出発しています
ここではまず前述のとおりデザインおよびデザイナーの　本質を広い観点に立つて
把握させます
教育内容も
単なる　裁ち　縫い　の狭い技術の習得だけではなく　デザイン感覚の基礎訓練から
徹底して行います　　また　ドレスデザインの〝わく〟のみでなく　衣服と家具・室内・器具など他分野との関連をもたせ　広い視野に立つて学ばせることも特色といえましょう
リビングデザイン科は
グラフィック・デザイン　室内家具デザイン
工業デザイン　建築・・・など
デザイン各分野に共通する要素を
総合的に学ばせます
はじめの1年では　本片を削り　紙を切り
針金やプラスティックスを曲げる・・・など
子供の遊びのような作業をします　こうした
一連のトレーニングは　ポスターを描き
家具やオートバイのデザインを夢みる人たち
――桑沢デザイン研究所をデザイン技術の
即効薬・・・と考える人たち――にとつては
意外なことであり　失望をあたえることかもしれません
しかし単なる技術の習得
のみを望むならば　他にそれを満たす場は
ありましよう
自らの手で　1片の木片を削ることのなかに
木材というもの　の無限の可能性を発見し
道具を〝自分の手〟にすることによつて
造形のＡＢＣを　1つ1つ　自分の手で体得してゆくことに　重要な意味があります
そうした地味な　一見　遠まわりで　無駄のようにみえる作業は　実は将来
自分の〝ことば〟をもつて語れる　他人の真似をしない　豊かな　創造力の持主となる
近道ともなりうるのです
2年目には
この基礎訓練の他に　プロダクト・デザイン
ヴイジュアル・デザイン　室内家具デザイン
などの実習が加わりますが　この課程においても　それぞれの分野のデザインの本質を
とらえさせることが主眼で
技術の養成だけではありません
生活と素材の可能性を発見し　それを製品として実現することのできる　とらわれない
〝自由な眼〟と　〝たしかな態度〟　をもつ
現代人の訓練の場としてリビングデザイン科は重要な意味をもつています

行事 作品

1 既製服工場見学（ドレスデザインクラス）
電気裁断機で1度に45枚の婦人コートが裁断される
量産服のデザインは　そのプロダクト的な工程と切り放しては考えられない

2 夏期講習会シンポジウム
涼しい夏の夜の屋上で　講習会最後のシンポジウムが和やかな雰囲気のうちに開かれた

3 都内バス見学（リビング基礎クラス）
大型バスを移動教室として都内の建築・道路・都市計画など　機動的に講師の解説を受けながら楽しく学ぶ

4 ハンド　スカルプチュア（リビング基礎クラス）
握りやすい形を理屈ぬきでつくる　削り始めた木片がやがて　おもいおもいの個性的なフォルムを形作る

5 マツチ棒によるラーメン構造（リビング基礎クラス）
基本的な構造原理を　マッチ棒を使つて構成しながら理解し　同時にメカニックな造形美を認識する

6 グレイハーモニー（ドレスデザインクラス）
印刷物のテクスチュアを追及した平面構成

7 紙による耐圧構造体（リビング基礎クラス）
上下　周囲からの加圧に耐え得る円筒は同時にフォルムとしても美しい

学科目一覧表

リビングデザイン科

基礎クラス		研究クラス	
基礎造形	平面 立体 構造 色彩	基礎造形	平面 立体 時間 空間
表現実習	ドラフティング スケッチ　写真 文字	デザインの基礎	・ヴィジュアル・デザイン グラフイック・デザイン パッケージ・デザイン フォトジェニック・デザイン ・プロダクト・デザイン インダストリアル・デザイン インテリア・デザイン ディプスレイ・デザイン 材料　構造
生活空間	生活器具 住空間 グッドテースト 機能研究		
造形教養	造形原論 社会概論 英書講読 各種見学	デザイン原論	デザイン総論 デザイン心理学 プロダクト・デザイン ヴィジュアル・デザイン

ドレスデザイン科

基礎クラス		デザインクラス	研究クラス
基礎造形	構成 色彩	構成 色彩	構成 色彩
表現実習	ドレスデザインの基礎 ドロウイングの初歩	ドレスデザインの理論と実習 服飾配色 デッサン モード・ドロウィング	ドレスデザインの総合実習 形と色と材質の感覚実習
技術理論	製図理論 製図実習 縫製実習	製図理論 縫製実習 ドレーピング	裁断理論 縫製実習 ドレーピング
デザイン教養	社会 英語 生活空間 各種見学	被服材料学 服装史 英語 社会 造形教養 各種見学	ドレスデザインの総合講座 被服材料研究 各種見学
備考		デザイン専修クラスは技術理論をのぞきます 技術専修クラスは表現実習をのぞきます	

リビング デザイン科

基礎クラス

昼間　午前9時～午後4時

夜間　午後6時～午後9時

課目	内容	説明
基礎造形	平面 立体 構造 色彩	造形活動はどこまでも　広い全人間的な表現であるべきだとの主張から　バウハウスの造形システム・オストワルドの色彩システムに範をあおぎ　独自のカリキュラムに展開された基礎実習　既成概念をときほぐし新しい視覚・広い視野に立って創造的な造形をしてゆくために　単なる手先仕事で終始することなく　形・色彩・空間の諸要素と　その相互関係を理解し　意味・機能・材料・構造を総合的に把握させる
表現実習	ドラフティング スケッチ（写真） 文字とことば	デザインの基礎的技術を集約して　表現としてまとめ上げるためには　その真の意味を理解し　実際的なテクニックとして習熟してゆく必要があると考えられる　今まで予備知識の全くない人たちにとっても　何らかの経験をもつ人にとっても　今後のよりよき　より大きな発展が期待せられる基礎実習
生活空間	生活器具 住空間 グッド・テースト 機能研究	建築のことばかりでなく　すべての人間が生活してゆくために　生活を明るく楽しくする環境を　もっとすべてのところに求め　研究してゆくことは大切である　生活器具・家具・室内・住宅・建築施設・地域社会・都市のどれをとりあげても　機能・グッドテースト・デザインの関連は様々の問題をもっている
造形教養	造形原論 社会概論 英書講読 各種見学	デザイナーや一般社会人・家庭人にとって有用な造形についての一般知識教養を　スライド・図版など視覚的な方法も加え　平易に解説される　なお英書講読としては　デザインの古典とみられるリードの著作そのほか近刊雑誌などをテキストとしている　デザインの実際面を各種の調査や見学を通じて体得　理解する年間プログラムがたてられている

備考

夜間クラスは　左記にあげた諸教科の各課目ごとの分化が時間数の関係上必ずしも行われていません　また　造形教養の内容のうち　社会概論・英書講読は行われません

ただ目標とする実習をとおして総括的に学習するシステムは　昼・夜間をとわず　有意義な明るい雰囲気をもり上げ個性のはげしいぶつかり合いによって　相互のよりよい影響の機会となり　社会人となってゆくときの意識にめざめ　自主的な授業がすすめられる結果となっています

デザインの諸分野に共通する基本的な問題について　その解決のために必要な要素を総合的・組織的に実習をとおして学びます　ここで今までもっていた既成概念をすてて新しいものの見方・考え方をとることをすすめます　このために研究生各自は積極的な意欲をもって　一つひとつの実習課題を自主的に学ぶうちに　造形のテクニックにも　新しい各種の材料にもふれることになってゆきます　元来デザインとは　人間性に立脚し　生活に根ざし　社会の進歩に貢献するものであり　デザイナーとは　豊かな創造力の持主であると同時に科学的な人間であり　人間関係では協力を惜しまず　（ひかえ目で）勇気のある社会人であります　したがって　このクラスの教育は将来デザイナーを志望する人またはデザイン関係の現職にある人には　基礎勉強として最適であり　一般の人には　生活をたのしく豊かにする教養として有意義です

入学資格・進学資格

高等学校卒業程度以上　　経験・男女を問いません

この基礎クラス（昼・夜）から　それぞれの研究クラス（昼・夜）へ進学できます

1 2 3 4 5

1 基礎造形　オストワルドシステムによる配色実習（白石勝彦）
2 生活空間　透視図法の原理（山口勇次郎）
3 生活空間　家具製図指導（豊口克平）
4 生活空間　電気器具ラフスツチ（金子至）
5 基礎造形　屋外でのハンドスカルプチユア製作

リビング デザイン科

研究クラス

昼間 午前9時〜午後4時

夜間 午後6時〜午後9時

課目	内容	説明
基礎造形	平面 立体 時間 空間	ゆたかな発想と造形能力を培うために　基礎クラス当時より　更にエッセンスにしぼつた形で継続してゆく　平面（2次元）立体（3次元）時間（4次元）の造形空間に　色・形・光・音などの純粋素材による構成を試みモチーフ　アイディアの充実助長をはかる　デザイン発想の根本はこういう自由な創造力にある
デザインの基礎	ヴィジュアルデザイン グラフィック フォトジェニック パッケージ	グラフィックデザインの機能を理解し　基礎的な表現能力を培う　レタリング・イラストレーション・レイアウト・印刷知識・編集技術等を現役作家の指導のもとに学んでゆく　技術はあくまでも表現のための裏付けである　また撮影・暗室作業等の技術習得を通して写真を理解し　積極的に使いこなせるよう他科目と総合的に関連させてゆく　パッケージデザインはプロダクトと関連して学ぶ
	プロダクトデザイン インダストリアル インテリア ディスプレイ 材料構造	生活器具・事務用器など身近なものを題材にワークを始め　そこに出てくる共通の問題点を通じてＩＤ全般に考え方をすすめてゆく　製図・レンダリング・モデリング等の実技とともに　それ以前のアイディアを重視する　また住空間の研究からインテリアデザインに更に量産家具に発展させ　最後にディスプレイデザインに総合してゆく　併せて各種材料の機能・構造について講義および見学を行う
デザイン原論	総論 デザイン心理学 プロダクトデザイン ヴィジュアルデザイン	原論的なものをさらに掘り下げ　デザイン思考を深めるとともに　心理的・社会的な拡がりを求め　マスコミュニケーション　アドヴァタイズメント等　社会におけるデザイン　およびデザイナーの位置・あり方を正しく認識してゆく　デザイナー・アートディレクター・評論家による充実した講義がすすめられる

備考
基礎クラスと同様　夜間クラスは時間数の関係上授業内容はかなり重点的にしぼられてきます 夜間クラスの特長として社会人として自立している人が多く　デザインを職業としている人も　全く性質の違う職業についている人もあるが　お互いにデザインに対する情熱は同じであり　仕事の経験も豊かで　そういう対人関係の中で学び合うことは大きい　そして自発的・積極的にワークをすすめてゆく雰囲気が生み出されます

基礎クラスのベーシックな訓練を土台として一歩をすすめかなり具体的なかたちで　デザインの基礎教育に入ります
ヴィジュアルデザイン　プロダクトデザインのワークを中心に授業をすすめてゆきますが　新鮮な造形感覚を持続するための基礎造形　現代デザインについて巾広く認識を深めるための総合的および専門的なデザイン原論も併せて学んでゆきます　2年の短期間に速成的な専門コースにわかれるよりも今日のデザイナーとして必要な総合的な常識を　基礎の学習中においてこそ十分身につけておくべきだという考え方のもとに　全課目必修の方針をとつています
要は　職人的テクニシャンをつくるための単なる技術教育ではなく　デザインに対する根本的な思考力を養い　将来に伸びる可能性を培うための人間教育が　この研究クラスの目的だということです

入学資格

当所リビングデザイン科基礎クラスを卒業した者とします
夜間の場合は　夜間の研究クラスにのみ進学することになります

1 2 3 4

1 写真　ライティングの研究（石元泰博）
2 プロダクトワーク　パッケージ製作
3 ヴィジュアルワーク　表紙デザイン講評（草刈順）
4 フォトジェニックデザイン建築写真の合評（浜口隆一　石元泰博　矢野目鋼）

ドレス デザイン科

基礎クラス

昼間　午前9時～午後4時

夜間　午後6時～午後9時

課目	内容	説明	備考
ドレスデザインの基礎	ドレスデザインの基礎および実習	衣服の用途および性格・流行解説・服飾評論　個性と体型によるデザイン指導　製作物に対するデザイン指導　仮縫	授業日は　A・Bクラスは毎日　Cクラスは週3日間です 見学は　A・B・Cクラス合同で教授内容と関連して　随時　各種工場　研究所　展覧会　ファッションショー等を予定しています その他　季節ごとのリクリェーションなども　たのしい行事のひとつになっています
製図理論 製図実習	原型の原理・体型補正 婦人子供服全般	●婦人服 下着　スカートおよびスラックス　ブラウス スモック　ワンピース　セパレーツ　ジャケット コート 応用製図 ●子供服　下着　スカートおよびブラウス　ズボン オーバーオール　ワンピース　スモック　ジャケット コート ●男子服 シャツ　スモック　ジャケット	
縫製実習	ミシンおよび洋裁用具の使用法・部分縫・裁断縫製実習	基礎部分縫各種 製作物 夏物スカート　ブラウス　スモック　男子シャツ　ワンピース　冬物スカート　スラックス　カーディガン ジャケット　ツーピース	
構成	デザイン感覚の基礎実習	自由な創造と表現をめざし　色彩・材料・用具・技法などを理解し　よりよく使いこなすための練習	
造形教養	デザインと生活	デザインとは何か　デザイン諸分野とドレスデザイン	
ドローウイング		ドレスデザインに必要なデッサン基礎実習	
服飾	帽子	ドレスの性格と帽子デザインの関係　個性とデザイン	
色彩	服飾配色	オストワルドのカラーシステムによる理論と配色実習	
語学	英語	テキスト（フアッションブックより）	
社会	社会学の知識	社会人としての一般常識および社会心理学	

ドレスの基礎的な感覚　技術を学ぶためのコースです　このクラスの特長は　一般の洋裁学校で行う　初歩的な洋裁技術の習得のみを目的とせず　デザインと社会のつながりを学び生活全般に必要なデザイン教養を　それぞれ専門の講師により　独特のシステムによつて体験させる点にあります　また実物製作を中心として　感覚・技術の総合的訓練を徹底的におこないます　視野をひろくする意味での　各種の見学　レクリェーションなどが計画され　同時に各クラスの交流によつて　研究生相互に学び合うたのしい学生生活を理想としています

夜間クラスは　働きながら学ぶ人のために　また他の大学を兼習する人のために　昼間クラスと同じ講師による　同じ教育内容を　短時間に能率的に学習するシステムをとつています　修了後は昼間クラスと同等の実力をもつて進学出来ます　入学資格も同様です

入学資格

高等学校卒業程度　経験・男女を問いません

基礎クラス（昼・夜）より　昼間のデザインクラス（1年）を経て　研究クラスに進学できます　なお夜間の場合　夜間のデザインクラス・技術クラス（各1年）を経て　研究クラス（昼間）に進学できます

1 | 2 | 3

4

1 製図実習　製図指導　（徳永八重子）
2 仮縫いの実習　（遠藤恭子）
3 社会　生活環境とドレスデザイン　（林進）
4 ドレスデザインの基礎　仮縫いの研究　（桑沢かね子）

ドレス デザイン科

デザインクラス

昼間　午前9時〜午後4時

課目	内容	説明
ドレスデザインの基礎	ドレスデザインの理論および表現実習	ドレスの構造・性格・用途の基礎理論 構造・性格・用途を考慮した表現実習 ドレスデザインに必要な感覚基礎訓練実習 平面構成および小ボディによる立体構成 ドレスデザインの配色法および実習 帽子の基礎理論
構成	デザイン感覚の基礎実習	主として平面における美的感覚の洗練・材料練習・視覚言語としての構成の実習
色彩	色彩感覚の洗練 色彩原理 調和実習	オストワルドのカラーシステムによる色彩理論と配色法　基礎実習および応用練習 色彩を主とした構成理論および実習
デッサン	ヌード・デッサン	人体の基礎解剖理論および　その観察と描写の訓練
モード・ドロウイング	コスチュームの描写	コスチュームにおけるムーヴマンの観察と描写の訓練と色彩によるドロウイング　材料による描写実習
技術の理論及び実習	製図理論　量感研究 立体裁断　実物製作	基礎から最高技術までの職能的な縫製を実習により指導する　高度な婦人服・子供服・男子服一切 実物製作　スーツ・コート・スラックス・自由教材
被服材料学	繊維の性能と組織の理論および見学	繊維の種類および組織とその用途　染料の分類 製造工程　繊維工場見学
服装史	服装の文化史	衣服の起源・衣服の変遷・民族様式
社会	一般社会学理論	社会人としての一般常識および社会心理学
造形教養	デザインの総合理論 現代美学思潮および近代デザイン運動史　ドレス・デザイン評論	近代造形の本質とその構成原理 現代社会におけるデザインの諸分野とデザインの機能

備考

当所のドレスデザイン科は　いままでの　いわゆる洋裁学校が花嫁教育を主眼としているのに対して　本格的な職能人のための教育に主体をおいている点　根本的に異なりしかもそれが視野のせまい職人的な養成ではなく社会人としての広く　強い意識と　高度な造形感覚の習得を基にして　将来のドレスデザイナーの在り方を追求してゆこうとしています　と同時に家庭人としても　明るく楽しい個性ゆたかな生活を築くために役立つよう豊富なカリキュラムをくんでいます

ドレスデザインに必要な基礎感覚の訓練と理論的な研究とを実際に即して学ぶクラスです　当所の基礎クラスを終った方か　洋裁をひと通り学ばれた方が　より広い視野に立ってドレスデザイン全般を総合的・集中的に学習するところに特色があります

授業内容としては　デザインと社会との関連　服装史　デザイン史　造形全般の原論　被服材料の組織と用途の理解など広範囲高度な教養科目を裏付けとして　形・テクスチュア・色彩など基礎造形感覚の訓練と高度な縫製・製図など技術実習に加えたドレスデザインの根本原理と　その表現実習を徹底的に行います

ともすればデザインの勉強は　華やかなスタイル画を描くことと考えられがちですが　正しいデザイン感覚を身につけるためには　堅実で地味な勉強のつみ重ねが必要なのです

入学資格・進学資格

旧制中等学校または新制高校卒業者で　洋裁経験1年または洋裁学校卒業以上の方　男女を問いません　なおクラス編成に当つて当所基礎クラス卒業者を加えます

このデザインクラス卒業者は研究クラスに進学できます

1 | 2

3 | 4

1 ドレスデザインの基礎　基礎理論と実習（桑沢洋子）
2 ドレスデザインの基礎　服飾配色実習（根田みき子）
3 色彩　応用課題の実習（海本小織）
4 デッサン　ヌードデッサンの指導（佐藤忠良）

ドレス デザイン科

研究クラス

昼間 午前9時〜午後4時

課目	内容	説明
ドレスデザインの基礎	ドレスデザインの理論および表現実習　技術の理論および実習	構造・性格・用途を考慮した表現実習　ボディーによる立体構成　配色実習　新しいシルエットの裁断理論と実習　ドレーピング　各種織物および毛皮類の扱いおよびその製作
構成	形—空間感覚	構成実習を通じて　形—空間の要素とそれら相互の関係を理解
	材料体験・構造研究	形と色彩と材質の総合的感覚の把握
色彩	色彩感覚の洗練 色彩原理・調和実習	色彩理論による応用練習
デッサン	ヌードデッサンおよびクロッキー	人体の観察と描写の訓練 ムーヴマンの把握
モード・ドロウイング	コスチュームの描写	ドレスの性格および布質の描写など本格的なデザイン画の把握
被服材料学	繊維の性能と組織の理解および見学	各繊維の実習による性能の検査 組織を理解するための見学実習
総合講座	デザイン・技術の総合理論	各講師のオリジナルなデザイン感覚と技術の公開

備考

従来　当所の教育方針として　昼間・夜間を通じ同一の講師・教師によって　職域に立つ人にも家庭人にも等しい教育効果をあげるよう考慮されてきました　しかし真の職能人にふさわしい授業内容をもり上げてゆくための時間を十分とることは夜間クラスでは極めて困難なので　このクラスは昼間のみです　従つて夜間のデザイン専修・技術専修の両クラスを終え　なお　高度な研究を続けたい方は　この昼間クラスで学ぶことになります

研究クラスは　ドレスデザイン科における最終コースです
基礎・デザイン・技術クラスなどのいわば総仕上げのコースともいえます
授業の方針および内容は　主としてデザインクラスの内容を土台とし　感覚的にも　技術的にも　いつそう深く追求させます
とくに後期においては　所外の著名デザイナーおよび技術家を講師として招き　講師それぞれの個性・感覚・深い体験に触れさせることにより　感覚技術ともに豊富に学ばせます
また実物製作を豊富に手がけることにより形・色・材質などドレス・デザインのポイントを把握させます

入学資格

当所デザインクラス（昼間・1年）または夜間のデザインクラス・技術クラス（計2年）を卒業した者とします

1 | 2

1 モード・ドロウイング　描写テクニックの指導（宮内裕）
2 ドレスデザインの基礎　裁断理論と実習（塙経亮）
3 ドレスデザインの基礎　ディテイルの技術（大空淑子）
4 ドレスデザインの基礎　配色指導　ラフスケッチ（桑沢洋子）

3 | 4

ドレス デザイン科

技術専修クラス

夜間　午後6時～午後9時

技術の理論および実習 裁断実習（横沼恵美子）

課目		内容	説明
ドレスデザインの基礎			衣服の用途および性格についての理論　流行解説　服飾評論　製作物に対する個性と体型によるデザイン指導　仮縫の指導
技術の理論および実習	製図実物 実物製作 ドレーピング		基礎から最高技術までの　職能的な縫製を実物により指導する　製図理論および作図　高度な婦人服　子供服　男子服基本　流行裁断　実物製作
服飾配色			オストワルド　カラーシステムによる基礎練習　ドレスの配色実習
被服材料学	繊維の性能と組織の理論		繊維の種類および組織とその用途　染料の分類　製造工程
服装史	服装の文化史		衣服の起源　衣服の変遷　民族様式
造形教養	造形原論および各種見学		デザイナーにとって必要な造形の一般知識教養をスライド・図版・見学など視覚的な方法も加え解説される

このクラスは　すでにある程度の経験者が　さらに高度なドレスの技術を完全に把握するためのものです　本科（基礎クラス）修了者および洋裁学校修了者　あるいは短大服飾科卒業者が　職能人としての服飾技術の習得のために　または今までの経験をより深く掘り下げたい人々に適切です
なお　このクラスにおいても　技術だけの一方的な教育でなく造形全般の原論　被服材料の組織の理解　服装史など高度な教養科目によって　感覚の視野をひろめる学習をおこないます　特に昼間職を持つ人達のために考慮されています

入学資格・進学資格
入学資格はデザイン専修クラスと同じ　卒業後同専修クラスをへて研究クラスに進学できます

選　科

当研究所の学習システムや授業内容は　担当講師諸先生の熱烈なシンポジュムに基づく全体的な考慮が払われています　そのため単一課目の聴講はできませんので　次のクラスが置かれています

ドロウイング・クラス　講師　佐藤忠良　朝倉　摂

個人教授の形式で人体の基礎解剖と人体デッサン　ヌード・コスチュームの観察と描写の訓練　立体構造線と色彩などのドロウイングをも学びます

デザイン専修クラス

ドレス デザイン科

夜間　午後6時～午後9時

課目		内容	説明
ドレスデザインの基礎	ドレスデザインの理論および表現実習		ドレスの構造・性格・用途の基礎理論　構造・性格・用途を考慮した表現実習　ドレスデザインに必要な感覚訓練実習　平面構成および小ボディによる立体構成　ドレスデザインの配色法および実習　立体裁断の理論および実習（小ボディによる）　帽子の基礎理論
構成	デザイン感覚の基礎実習		主として平面における美的感覚の洗練　材料練習　視覚言語としての構成の実習．
色彩	色彩感覚の洗練　色彩原理 調和実習		オストワルドのカラーシステムによる色彩理論と配色法　基礎実習および応用練習
デツサン	ヌードデッサン		人体の基礎解剖理論および裸体の観察と　描写の訓練
モード・ドロウイング	コスチュウムの描写とその彩色実習		ムーヴマンの観察と　描写の訓練およびその彩色実習 材料による描写実習
被服材料学	繊維の性能と組織の理論		繊維の種類および組織とその用途　染料の分類　製造工程
服装史	服装の文化史		衣服の起源　衣服の変遷　民族様式
造形教養	造形原論および各種見学		デザイナーにとつて必要な造形の一般知識教養をスライド・図版・見学など視覚的な方法も加え解説される

デザイン全般に必要な形・テクスチュアー・色彩などの基礎実習によつて　美的感覚を訓練すると同時にドレス・デザインの根本原理および表現実習を徹底的におこなうクラスです　単なるデザイン感覚のトレーニングだけでなく　デザインと社会とのつながり　ドレス・デザインのみでないデザイン各分野への理解のための造形原論など総合的に学習する点に特長があります

入学資格・進学資格
旧制中学校または新制高校卒業者で　洋裁経験1年または洋裁学校卒業以上の方　男女を問いません　なおクラス編成に当つて当所基礎クラス卒業者を加えます
このデザインクラス卒業者は技術専修クラスを卒業後研究クラスに進学できます

製帽クラス　講師　平田暁夫

実物製作を中心として　基本的造形感覚の把握に重点をおき　帽子の種類性格用途・材料の扱い方・製図裁断製作・ドレスとの関連などを学びます

フランス語　講師　霧生和夫

文法・発音に重点をおき　フランス語のａｂｃからデザイン関係の雑誌が読める程度までを　週一回の平易適切な講義の反復によって進めます

製帽科　帽子の基礎理論（平田暁夫）

講師一覧

リビングデザイン科

阿部公正　横浜国立大学講師
淡島雅吉　淡島ガラスデザイン研究所長
石元泰博　写真家
今泉武治　アートディレクター・丸見屋
海本　健　造形教育家
大辻清司　写真家
勝見　勝　美術評論家
金子　至　KAKデザイン・JIDA
神之村あやめ　語学研究家
河合正一　建築家・横浜国立大学助教授
草刈　順　グラフィックデザイナー・日宣美
剣持　勇　剣持デザイン研究所長
小池光三　大日本印刷株式会社
佐藤敬之輔　武蔵野美校教授・デザイン学会
佐藤忠良　彫刻家・新制作協会
篠原一男　建築家・東京工業大学
清水幾太郎　学習院大学教授
新庄　晃　工業デザイナー・JIDA
清家　清　東京工業大学助教授
高橋正人　東京教育大学教授
高山正喜久　東京教育大学講師
田中一光　グラフィックデザイナー・日宣美
田村　茂　写真家
塚田　敢　千葉大学工業意匠学科助教授
手塚敬三　東京都立工業奨励館指導部長
豊口克平　産工試意匠部長・JIDA
信定宏郎　跡見学園短期大学講師
橋本徹郎　二紀会
林　進　財団法人　二十世紀研究所員
浜口隆一　評論家・建築学会・デザイン学会
松村勝男　松村勝男デザインルーム
真鍋一男　横浜国立大学講師
皆川　正　工業デザイナー・JIDA
宮　桐四郎　グラフィックデザイナー・日宣美
目島計一　写真家
宮崎正治　新陶商会代表・財団法人工芸学会
矢野目　鋼　写真家
山口勇次郎　産工試技官・JIDA
山城隆一　グラフィックデザイナー・日宣美
吉木文平　旭ガラス株式会社

《特別講師》
池辺　陽　東京大学助教授
伊藤憲治　グラフィックデザイナー・日宣美
大橋　正　グラフィックデザイナー・日宣美
亀倉雄策　グラフィックデザイナー・日宣美
川崎円祐　アートディレクター・銚子醤油
高橋錦吉　グラフィックデザイナー・日宣美
原　弘　グラフィックデザイナー・日宣美
増沢　洵　増沢洵建築設計事務所
黛　敏郎　作曲家
山口文象　建築綜合研究所長・新制作協会
祐乗坊宣明　アートディレクター・朝日新聞社

白石勝彦　桑沢デザイン研究所員
田中　淳　〃
羽生道雄　〃
坂野長美　〃
矢沢宏司　〃
横山徳禎　〃

ドレスデザイン科

朝倉　摂　画家・新制作協会
東　昇　東京工業大学助教授
阿部公正　横浜国立大学学芸学部講師
小川安朗　東邦レーヨン
小野良子　東京家政大学講師
勝見　勝　美術評論家
神之村あやめ　語学研究家
佐藤敬之輔　武蔵野美校教授・デザイン学会
佐藤忠良　彫刻家・新制作協会
清水幾太郎　学習院大学教授
高橋正人　東京教育大学教授
高山正喜久　東京教育大学講師
丹野　郁　埼玉大学助教授
信定宏郎　跡見学園短期大学講師
橋本徹郎　二紀会
林　進　財団法人　二十世紀研究所員
塙　経亮　婦人洋服・日本洋装協会理事長
浜口隆一　評論家・建築学会・デザイン学会
平田暁夫　帽子デザイナー日本婦人帽子協会
真鍋一男　横浜国立大学講師
宮内　裕　モード作家三人会・水彩連盟会員
柳　悦孝　テキスタイルデザイナー・国画会
矢野目　鋼　写真家

《特別講師》
近藤百合子　ドレスデザイナー・伊勢丹
諸岡美津子　諸岡美津子デザインルームNDC
安東武男　モード作家三人会・NDC

桑沢洋子　桑沢デザイン研究所長
桑沢かね子　桑沢デザイン研究所員
根田みさ子　〃
大空淑子　〃
徳永八重子　〃
海本小織　〃
遠藤恭子　〃
柳沼恵美子　〃
前田晃子　〃
酒井シズ子　〃
豊田高代　〃
田中　淳　〃
八木偕子　〃
青木圭子　〃
近藤　英　〃
谷　二三　〃
枝松真理子　〃
木村悦子　〃
和田栄子　〃
中村典子　〃

注　日宣美　（日本宣伝美術会）
　　産工試　（産業工芸試験所）
　　JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会）
　　NDC　（日本デザイナークラブ）

（敬称略・50音順）

科・クラス 授業日・学費

科	クラス	部	授業	時間	選考料	入学金	授業料	諸費	設備拡充費
リビング・デザイン科	基礎クラス	1(昼)	毎日	前9～12時 後1～4時	1,000円	5,000円	年 30,000円	年 3,000円	5,000円
		2(夜)	週4日	後6～9時	1,000円	3,000円	年 18,000円	同上	3,000円
	研究クラス	1(昼)	毎日	前9～12時 後1～4時	進学料 1,000円		年 30,000円	同上	
		2(夜)	週4日	後6～9時			年 21,600円	同上	
ドレス・デザイン科	基礎クラス(本科)	1(昼)	毎日	前9～12時 後1～4時	500円	3,000円	年 12,000円	同上	5,000円
		2(夜)	週3日	後6～9時	500円	2,000円	年 7,200円	同上	3,000円
	技術専修クラス	2(夜)	週3日	後6～9時	500円	2,000円	年 12,000円	同上	3,000円
	デザインクラス	1(昼)	毎日	前9～12時 後1～4時	1,000円	4,000円	年 24,000円	同上	5,000円
	デザイン専修クラス	2(夜)	週4日	後6～9時	1,000円	3,000円	年 15,600円	同上	3,000円
	研究クラス	1(昼)	毎日	前9～12時 後1～4時	進学料 1,000円		年 24,000円	同上	
選科	デッサンクラス		週1回		500円		チケット制	諸費は研究会、機関誌、図書、水道光熱、校友会費など	各クラス共進学者は設備拡充費の納入を要しません
	製帽クラス				500円				
	フランス語クラス				500円				

- 修業年限は各クラス共1ケ年
- 学費は6ケ月前納をたてまえとします
- 一度　納入したお金は　いかなる理由があってもお返しいたしません
- 教材費などの雑費については選考のおりに説明いたします
- 授業日は追って発表します
- 時間の許すかぎり　1人2クラスを兼修することができます
- 各クラスとも男女年齢を問いません
- 各クラスへの一部聴講および途中入学は認めません

入学手続

受付　1月10日より

申込　所定の願書に
- 名刺大写真2枚
- 最終学校卒業（見込）証明書又は卒業証書の写し
- 身体検査書（願書裏面のもの）
- 選考料（クラスによつて異ります）

を添えて申込んで下さい

締切　3月25日
- ただし　ドレス・デザイン科基礎クラスは満員になり次第締切ります

選考
- リビング・デザイン科基礎クラスは3月28日(土)テストと面接を行います
- ドレス・デザイン科デザインクラスは3月29日(日)面接と簡単なテストを行います
- ドレス・デザイン科技術専修クラスおよびデザイン専修クラスは日を定めて面接を行います
- ドレス・デザイン科基礎クラスは申込順に　そのつど書類選考と面接を行います
- 選考場所は当研究所です

入学許可
- 選考の結果　合格者には1週間以内に合格通知をします
- 合格通知を受けたら　1週間以内に所定の金額を納入して許可証をうけて下さい

この手続がおくれますと入学の意志がないものと認めて補欠者に許可をあたえることがあります

入学式　4月15日

其他
- 寮はありません
- 選考や入学のために地方から上京される方のためには宿のお世話をいたします
- 第1部（昼間クラス）に対しては学割が利用できます
- 問合せは　電話　渋谷（46）5330，8853
- 案内書は（〒共）¥68です

学校法人 桑沢学園
桑沢デザイン研究所
東京都渋谷区北谷町32
電話　渋谷（46）5330，8853

表紙　横山徳禎　581206